

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	大島郡周防大島町大字日前1568 - 6		
電話番号	0820-73-0023	事業所番号	3577100401
法人名	有限会社サンスカイ		

訪問調査日	平成 21 年 8 月 25 日	評価確定日	平成 21 年 12 月 10 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人 非常勤 2 人 (常勤換算 16 人)

#### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
その他の費用	月額 22,000 円			
	内訳 光熱水費、おやつ、レクリエーション費			

#### (4) 利用者の概要 (7月24日現在)

利用者数	12 名		男性	1 名	女性	11 名
	要介護 1			要介護 4	2	
	要介護 2	3		要介護 5	5	
	要介護 3	2		要支援 2		
年齢	平均 70.84 歳	最低	70 歳	最高	97 歳	

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 正木内科医院 歯科 河合歯科
---------	----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#### (優れている点)

運営者の経験豊かなリーダーシップの下に、職員のチームワークが良く形成され、いきいきとしたケアを実践されています。職員数も多く確保され、仕事がしやすい環境の中で、利用者の安心、快適な生活を提供されています。運営理念にもあるように、ホームが自宅の延長上にあることを旨としており、本人の生活ペースに合わせた自然な暮らしができ、利用者が最後まで尊厳ある生き方ができるようなケアに取り組んでおられます。

#### (特徴的な取組等)

介護度の高い利用者には、いつでも海の見える環境を提供し、外出が難しくても、テラスに出て空気に触れたり、プールにお湯を張って足湯をするなど、きめ細やかな暮らしを提供しておられます。今年度ホームが主催した長谷川和夫先生の講演会は、地域の人や行政、関係機関を巻き込んだものとなり、グループホームの理解と認知症の啓発となったイベントとなりました。

### 【重点項目への取組状況】

#### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回取り組みを期待したい項目の計画的な研修では、講演会の開催や、実践者研修、管理者研修への参加、リスクマネジメントの内部研修など積極的に取り組んでおられます。また、事故防止のマニュアルの作成や、緊急時の体験学習の実施なども改善されています。

#### (今回の自己評価の取組状況)

自己評価書は運営者、管理者、ケアマネージャーが中心になり、職員全員で話し合って作成されています。今年度は、研修内容の充実や事故防止への取り組みを強化されています。

#### (運営推進会議の取組状況)

3ヶ月に1回開催し、メンバーは、地域区長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、運営者、施設職員で、利用者の暮らしぶりや行事報告、外部評価報告、地域からの情報などで意見交換をし、サービスに活かしておられます。

#### (家族との連携状況)

写真入りの近況報告や行事案内を載せたホーム便りを毎月1回発行し、請求書を添えて送付したり、面会時や電話等で、日々の様子や健康状態を伝え、意見や要望を聞くようにしておられます。家族はよく面会に来られ、家族を交えての交流行事も開いておられます。

#### (地域との連携状況)

職員は地域のクリーン作戦や草刈りに積極的に参加され、地域の人と顔なじみになっています。夏に開催しているゆかた祭りには、地域の人がたくさん来られ交流が図られています。ホームにはソーラー発電を設置し、災害時の避難場所として地域の住民に呼びかけておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 (1)</p>	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域に開かれたグループホームを目指し、「地域の方々との交流を大切にする」という文言を盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
<p>2 (2)</p>	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>「家族や地域の人との交流を大切にする」という運営理念を職員全員で共有し、家族や地域の人々が突然ホームに来られても当たり前のこととして捉えているなど、理念の実践に日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>3 (7)</p>	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、地域のクリーン作戦や草刈りに参加している。ホームで開催するゆかた祭りでは、案内を地区長に回覧してもらい、地元の人との交流を図っている。また、ホームにソーラー発電を設置し、災害時の避難場所として住民に呼びかけている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>4 (9)</p>	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、職員ともに自己評価、外部評価を実施する意義を十分理解しており、前回の評価結果については、職員全員で話し合い、改善に取り組んでいる。</p>	
<p>5 (10)</p>	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>3ヶ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、地域区長、民生委員、家族代表、利用者などで構成され、参加者からの意見や助言等をサービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。</p>	
<p>6 (11)</p>	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>ホーム主催の講演会実施以後、町福祉課長や担当課の職員とのつながりが深くなり、運営面やサービスについての相談を積極的に行う機会が増えている。</p>	
<p>4. 理念を実践する為の体制</p>			
<p>7 (16)</p>	<p><b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月1回、ホームの行事や利用者の写真を載せたホーム便りを請求書と一緒に送付しており、面会時や電話等でも利用者の健康状態や近況報告を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8 (18)	<p><b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
9 (20)	<p><b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
10 (21)	<p><b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<p><b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
12 (24)	<p><b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		・他地域の地域密着型サービス事業所職員との交流の確保
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員はできるだけ利用者に寄り添いながら、日常の家事やレクリエーションを行い、支えあう関係を作っている。また、利用者の能力や得意とすることを上手に引き出す工夫をしながら、日々を楽しく過ごすよう努力している。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れ、過去の生活歴や環境の把握に努めると共に、日常生活での利用者の行動、表情、会話の中から、希望や意向を把握するよう心がけている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員全員で毎月1回ユニット毎の会議を開催し、利用者の要望、主治医の往診時の意見、面会時や電話連絡時の家族からの意見を参考にしながら介護計画を作成している。職員からは、夜間での利用者の様子なども参考にしている。	
17 (42)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月ごとに介護計画を見直しているほか、サービス状況については毎月のユニット会議で話し合っており、変化が生じたり見直しが必要な場合は随時検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホームが利用者の自宅の延長ということを尊重し、本人がしたいこと、やりたいこと(墓参りや畑仕事の手伝いなど)を優先できるような柔軟な対応を心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的には協力病院に主治医として関わってもらい、2週間に1回往診を依頼している。また、利用者の病歴に関わる医療機関には適切な情報提供を行いながら継続受診が出来るよう支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に、重度化した場合や終末期に備えて、本人、家族の意向を踏まえた同意書を利用者全員と交わしている。その場合には、かかりつけ医と相談し、方針を本人、家族、職員全員で共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉かけや態度に充分気をつけるよう職員全員で話し合っており、気が付いた時にはお互いに注意し合うようにしている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い適切に管理している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者のその日の体調や気分を量りながら、職員の都合を押し付けることなくその人のペースに合わせて支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は専任の調理スタッフが作っているが、食事の時間を楽しみなものとするために、手伝える人には、準備や配膳、後片付けなどをお願いしており、重度の人には、その人のペースで食事が取れるようゆっくりと対応している。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は基本的には1日おきで、時間が午前10時から12時までの間になっている。浴室は3か所あり、利用者のその日の体調や気分によって変えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	年々重度化していく中で、何がある人の楽しみごとか、張り合いかを見つけて、日々の活力につながる支援をしている。洗濯物たたみ、花札、ぬり絵、ボール投げ、輪投げ、ゲーゴル、カラオケなど、一人ひとりに沿った場面作りを設定している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の気分や希望に応じて、散歩や買い物などの支援をしている。重度の人には、テラスで外の空気に触れたり、プールにお湯を張って足湯をするなどの工夫をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について正しい認識を理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。特に、否定する言葉の弊害の認識と笑顔いっばいのケア、眠剤をなるべく使わないケアを心がけている。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	地域に開かれたオープンスペースとしてのホームでもあり、職員は鍵をかけることへの弊害をしっかりと理解し、鍵をかけない自由な暮らしに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	昨年からの課題であった転倒や窒息、誤薬などの事故防止マニュアルを新たに作成し、職員は利用者一人ひとりの行動パターンや注意すべき点を良く把握して、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルがあり、職員全員で急変時に起こりうる事故への対応について体験学習を行っている。普段は看護師を中心に利用者への対応を行っている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害マニュアルが作成されており、年に1回は消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの研修を行っている。ホームを地域の人の緊急時の避難場所として周知している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理は、看護職員が責任を持って実施しており、服薬情報はファイルに保管し、職員はいつでも確認できるようにしている。利用者への与薬は、全職員が行っており、状況変化がある場合は、協力医に相談している。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄、歯ブラシの清掃・管理などについて、一人ひとりの口腔状態に応じて支援している。また、定期的に協力歯科医からの口腔ケアの指導も受けている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取状況を把握し、カロリーや栄養バランスに配慮した食事を提供している。水分補給は、水分摂取管理票でチェックしており、利用者一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルがあり、予防のための手洗い、うがいの励行を行っている。感染症や食中毒防止のための研修は不十分である。	・定期的な感染症及び食中毒防止の研修の実施
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	訪問時には、リビングにみんなが集まり、季節の花を囲んで、花の名前を言い当てたり、とても和やかな雰囲気が見られた。壁には利用者の手作り作品や季節行事の写真が掲示されており、不快な音や光もない家庭的な自然な空間がひろがっており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に、持ち込むものについては家族と話し合っており、できるだけ利用者の使い慣れたもの好みのものが置かれ、安心感を持って過ごせるよう心がけている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	山口県大島郡周防大島町大字日前1568番地6
電話番号	0820-73-0023
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日

## 【サービスの特徴】

自然に囲まれた環境の中、明るい雰囲気改善を目的としたホームです。

## 【実施ユニットの概要】 (7月1日現在)

ユニットの名称	ひなたぼっこ		
ユニットの定員	18 名		
ユニットの利用者数	12 名	男性 1 名	女性 11 名
	要介護1		要介護4 2
	要介護2	3	要介護5 5
	要介護3	2	要支援2
年齢構成	平均 70.84 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者、ケアマネ、職員による話し合いで作成。
評価確定日	平成 年 月 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		災害時、地域の避難所としての役割が出来るように(太陽光自家発電)施設の機能充実を図り、地域の方に啓発している。
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		利用者の変化(身体的・精神的)や気付きの都度、ミーティングを行い確認して取り組んでいる。
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		出勤時、目にしやすい場所に掲示している。
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		利用者の笑顔と安らぎの為と改善に向け日々、各個人が努力している。
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		「認知症の方が地域で暮らすために」と題し、長谷川式スケールの長谷川教授の講演を主催し、地域の方との交流を実施。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		いつでも立ち寄りいただけるようにアピールし、施設を常にオープンにしています。
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		民生委員との交流ソーラー発電を設置し、地域の避難所の確保。
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		いつでも相談していただけるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		指摘事項は即時改善し、利用者の安心・安楽を基本にして活用している。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		利用者を中心に常に話し合いを重ね、介護に活かしている。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		町のキャッチフレーズを軸に町役場に協力を申し出て、話し合いや協力をしている。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		地域包括センター、社会福祉協議会の方々と必要な情報の交換をしている。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		スタッフ1人1人の負担軽減を考え、スタッフの人数を揃えて、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		入所を決める際には見学を勧め、他の利用者の状況や雰囲気を見て納得された上で入所、また退所の際にも相談を受けている。
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		利用者の声を聞き、家族が面会に来られた際に疑問、要望等の説明をしている。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理は家族等に定期的に報告をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		必要に応じて行っている。
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		専用のファイルを作り、職員全体に反映するようしており、苦情、相談等に関しては重要事項説明書に明記しています。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		定期的なミーティング等を行い、意見交換をし反映できるようにしている。
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		緊急時の人員確保を考慮し配置、振り分けを行っている。
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		不必要な配置転換は行っていない、また離職の時はその利用者等に必ず説明をしている。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		必要な研修は運営者側から適任者に受けさせる、また職員が申し出てこられた際も、勤務内容を変更するなどして出来る限り希望に添えるようにしている。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		経験、性別等バランスをとって配置している。
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		近隣の同業者との交流を行い、来訪される方も多いです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		職員のその日の体調で業務内容(入浴担当等)を変更するなど行う工夫をしている。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		人員配置等、必要な環境づくりを行っている。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		能力給や功労金として評価している。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		利用前に要望等を聞くことは当然、先ずはご本人が当ホームの状況や雰囲気や馴染めるかが重要で納得するまでしっかり見学していただきます。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		ほぼ上記と同じことです。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		ご本人の状況や地域性等に応じて、施設の選択方法などの助言を行っている。
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		利用開始当初は環境の変化等により不安が強いなどあった場合、家族にもお泊まりしていただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		職員、利用者、各個人の趣味や得意等を生かし、存在意義をしっかりと理解してもらい、支え合える環境を整備している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		利用者の問題等を共に考え、解決するようにしています。
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		入所してからも、定期的な面会、外出、外泊等出来る限りの協力を促しています。
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		面会、外出等、体調や流行病などを考慮してお願いしている。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		趣味や得意なこと等に応じた和づくりをスタッフも共に参加し、孤立者がないようにしている。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		退所後も望みに応じて対応している。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		出来る限り意向に添ったものになっている。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		家族、本人から話をよく聞き、サマリを作成し暮らし方の変化が最小限になるように努めている。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		その日の心身状態を判断し、生活作業や買い物等出来ることを一緒に行うようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		医師に助言をいただき、家族にも相談して作成を行っている。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		状況変化が生じた場合は即時、対応している。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		専用のファイルを作り、反映するようである。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		要望に応じて対処するように配慮している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		社会資源はもちろん、自然の活用も大いに取り入れ生活力を充実させるように努力している。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		中、高校生、大学生等の見学・研修の受け入れも行っている。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		地域連携室、社会福祉協議会、地域包括センター、居宅支援事業所等との連携を図り行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センター、民生委員、社会福祉協議会等と相談し協働している。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		月2回の内科医による往診を行い、その上で専門医の受診が必要であれば対応している。
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		精神・心療内科の往診も実施しており、相談援助も行っている。
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		看護師を2名配置し、日々の健康管理を行い、必要に応じて医師に助言をいただいている。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		必要な治療が済み次第、早期退院出来るように相談、協力している。
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		入所時に終末期のことも含め、話し合い契約を結んでいる。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		必要な時期には公私の社会資源を活用して本人、家族のサポートを行っている。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		必要な型に連絡を取り本人によい環境となるように努めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>		<p>尊厳を持って接するように心がけ、必要以上の個人情報漏洩しないように徹底している。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		<p>自己表現が出来るような雰囲気づくりに心がけ、スタッフは傾聴姿勢を表現し、自己決定を待つようにしている。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		<p>押しつけないような声掛けを行い、共に家事を行っている。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		<p>趣味や得意なこと等に応じた事を計画し、本人に無理がないように参加を促している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		<p>ホームでも行っているが、本人の希望するお店があれば家族に協力していただいている。</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		<p>体調に合わせて、出来ることは一緒に行っている。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		<p>病歴などを鑑み、医師に相談し他の利用者のストレスにならないよう考慮し、本人が楽しめるように行っている。</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		<p>排泄管理ファイルを作り、自力での排泄を基本に考え、場合によっては医師に相談し投薬にてコントロールしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。			体質、体調、身体機能を考え希望に添えるように行っている。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。			個人の体調に合わせ、自由にしてもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。			趣味や得意なことを把握し、楽しみごと、気晴らしの出来る環境づくりを心がけている。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。			トラブルの素になるので基本的にお金は所持しないことが望ましいが、買い物等に出かけたときなどホームで立替をして自由に買い物が楽しめるようにしている。
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。			散歩や畑仕事など本人にあわせ行っている。
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。			季節の合わせ、花見など行っている。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。			家族にも相談し、本人本意で自由にしてもらっている。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。			面会時間等は特に決めておらず、時間や都合が許す限り訪問していただけるようにしている。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。			希望があれば対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		夏祭りや歌手によるボランティアなどを計画し、近くの家族の方には参加をお願いしている。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		点滴等の医療が必要で危険が伴う場合を除き、見守りで出来ることはするようにして最低最小限度になるようにしている。
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		夜間は除き、玄関等は常に解錠してある。
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		常に見守りを怠らず、居室・ホール等の危険因子を排除するように考慮している。
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		入所時に家族を含め一緒に確認し、どうしても必要とされた場合は管理場所・方法などを把握している。
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		見守りや日常点検を行い、万が一の場合のマニュアルを作成、または話し合いを行っている。
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		看護師をスタッフに配置しているので、必要に応じて対処方法などを教育してもらっている。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事態の発生や可能性を見られたときは報告書の作成と共にミーティングを行い職員全体で共有するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		避難場所、連絡方法など明記し、即時対応できるように配慮している。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		各個人に起こりうるリスクを予測し家族、職員と検討し見守りに配慮している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		身体チェック表を作成し、毎日のバイタルチェック、毎月の身体測定を行っている。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		投薬管理ファイルを作成しており、服薬の変更や中止の際には全職員に通達し把握に努めている。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		食事内容や水分摂取方法など無理がないよう各個人の身体機能にあったものを提供している。
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		必ず職員が同行し、口腔内チェックや義歯管理に配慮している。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		食事量や水分摂取量のチェック表を作成しており、必要量になるよう各個人に働きかけている。
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		マスク・手袋・消毒剤などを配置し予防に对应している、また疑いや感染を確認した場合リネンの分別、隔離など拡大防止に考慮している。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食材は適正な管理場所を選定し、用具等も終日毎に消毒を行い衛生管理に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		分かりやすくするため、案内看板を設置しており、玄関先の整理整頓や手摺りをつけるなど配慮してある。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		季節に合わせた花や利用者と共に作成した飾り付けなどで、居心地よく・能動的に過ごせるように配慮している。
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		テーブルやソファの配置を考え上で各個人を尊重して、自由に行動してもらっている。
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		本人の希望に沿った居室づくりをしてもらっている。
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		温度計・湿度計を各所に設置し、利用者の意見も聞き空調や換気を調整している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。		家事など積極的に参加していただけるような雰囲気づくりに考慮している。
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		居室・トイレ・洗面所等に名札をつけ分かりやすくし、混乱を防ぐように配慮している。
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		天候や体調に合わせて、ティータイムや昼食など出来るようにしている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない